



彼らから学んだ幸せの意味

松山市立中島中学校 2年 岡田 葉那

この研修に参加する前、モンゴルといえば一面に広がる草原と駆け抜ける馬というイメージしかなかった。しかし、いざモンゴルの地に降り立ってみると、そこは、高層ビルが立ち並ぶ立派な発展都市だった。しかし、少し遠くの方を見てみると、自然環境の破壊によって遊牧ができなくなり、仕事を求めて移り住んできた遊牧民のゲルが山を埋め尽くしていた。私はこの光景に衝撃を受け、世界の経済格差の縮図になっているようにも思えた。

期待と驚きで始まった研修の3日目、私達はウランバートルにある高等専門学校を訪れた。生徒達は、コミュニケーションを取れるか不安だった私を笑顔で迎えてくれた。私は生徒との会話の中で、「日本語を学ぶのは大変だけど、自分の国の為に頑張りたい。」という言葉が心に残った。異国の地で同年代の学生と自分の夢について語り合ったこの時間は、私の夢を大きく広げてくれた。

自分の国の為に勉強に励む生徒達、たまたま会った私達にとびきりの笑顔であいさつをしてくれた女の子・・・どの人たちもモンゴルで生まれ育ったことを誇りに思い、生き生きと生活しているように見えた。

私は、この研修で出会った全ての人に感謝したい。“発展途上国の人々は可哀そう”そんなことを思っていた私に、幸せの意味を教えてくれた人々に。素晴らしい国モンゴルに生きる彼らの瞳は、いつでも夢と希望に満ち溢れていた。